

道連ニュース

2016年4月号 No.118

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

TPPから北海道民の命と暮らしを守るための シンポジウム開催

3月24日 京王プラザホテルで「TPPから北海道民の命と暮らしを守るためのシンポジウム」がTPP問題を考える道民会議（道連も幹事団体）の主催で400名の参加で開催されました。TPP協定は、今年の2月4日に参加12カ国による署名が行われ、今後、各国において承認手続きを進めることになり、我が国においても4月5日から審議入りしました。

TPP協定は農業だけでなく、医療、保険、投資、金融、労働など幅広い分野に及ぶもので、それぞれが私たちの命と暮らしに直結する内容を含んでいます。今回のシンポジウムは、TPP協定の中の「食の安全・安心」に焦点に開催されました。

まず、主催者を代表してJA道中央会の飛田会長は「国会での丁寧な論議を、TPPへの不安が取り除かれるまで拙速に批准すべきでない」と挨拶されました。日本消費者連盟の前共同代表で明治学院大学法学部講師山浦氏は「TPP協定における食の安全・安心分野について」テーマで協定文書の分析をもとにした基調講演 ①食の安全基準はグローバル企業の参加で策定されていく。②食品標示も遺伝子組み換え食品を標示したくてもグローバル企業の関与によって国独自で決

められなくなる。③食の安全より貿易の円滑化を優先され、基準は緩和される方向に行く等の危惧が報告されました。

パネルディスカッションでは、「私たちの食の安全・安心はホントに大丈夫？」のテーマ。コーディネーターの久田徳二（道新編集委員）の司会で始まりしました。JA道青年協議会の斉藤会長は「酪農家の立場から肉牛、乳製品の価格低下による経営への影響が受け」と報告。北海道生協連の山口専務は、TPP協定による食料自給率の低下への危惧、食の安全や安心について「消費者の持つ、知る権利、選択する権利を失う」と強調しました。NPO法人北海道食の自給ネットワーク事務局長の大熊さんは「混合診療による医療分野の後退することの危惧」について報告されていました。

TPP協定は選挙公約違反と国会決議違反。アメリカ大統領候補はみんな反対している。TPP批准に前のめりは日本だけ。交渉経過は「黒塗り」秘密。協定書の内容は疑問だらけ1%のグローバル企業の儲けのためのTPP協定。道連は、こうした問題だらけの「TPP協定反対」の取り組みを進めていきます。

お知らせ

北海道庁所管部の人事異動

環境生活部 暮らし安全局 消費者安全課 消費者安全グループ 生協担当

(敬称略) 2016. 4. 1 現在

環境生活部 暮らし安全局 消費者安全課消費者安全グループ	060-8588	札幌市中央区北3条西6丁目	電話 011-231-4111	FAX 011-232-3640
副知事	山谷	吉宏		
環境生活部長	小玉	俊宏	消費者安全グループ 主幹	鶴ヶ崎 徹
環境生活部次長	和田	秀樹	消費者安全グループ 主査	館岡 隆一
暮らし安全局長	成田	祥介		
消費者安全課長	近藤	哲司		

「河村征治さん(元コープさっぽろ理事長)を偲ぶ会」を開催

(生協虹友会事務局 佐藤静男)

今年1月10日急性硬膜下血腫により死亡した河村征治さんを偲ぶ会が、3月29日札幌市中央区のK Rホテル札幌で開かれました。会には、遺族及びコープさっぽろの元役員、日生協・道連・北大生協の元役員など生協関係者を中心に113名が出席しました。また、友人として横山清アークス社長、伊東孝弁護士、中野徹三元札幌学院大教授など多彩な方々も出席され、河村さんのエピソードや功績を語られました。

世話人代表として初代コープさっぽろ専務理事・真鍋康弘氏が経歴の紹介も含め挨拶し、閉会の辞は元道連専務理事・重原祐治氏が、河村さんとセゾングループ総帥であり詩人でもあった堤清二(辻井喬)を比類し、「人生の晩年を苦い想いを噛みしめながら生きてであろう、二人のセイジ」について、想いを語られました。

いずれの方々も、河村征治さんが学生時代から類い稀な知性とリーダーシップを発揮され、今日のコープさっぽろの基礎を築いた業績を異口同音に語って下さいました。横山社長からは、北大恵迪寮時代に河村氏の入寮審査をしたことなど織り込みながらのスピーチがありました。

しかし、コープさっぽろを退任するに至った評価については、当時各人が下した鮮烈な決断を引き継いで

いることを彷彿させる発言となりました。(スピーチを辞退される方もいた) いずれにしても、一つの時代が終わったと実感させる「偲ぶ会」でした。

(追記)

河村征治さんが生協の役職を退任されて20年が経過します。この年月は、コープさっぽろを始め道内の地域生協が経営再建に血のにじむ努力を費やした時間でした。今、現役の生協幹部の皆さんの中では「河村征治という名前」は、創立神話に出てくるスーパーマンか暴虐非道の権力者として記憶されることになるのでしょうか。

『協同組合のアイデンティティに関するICA声明』の《価値》として、「それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ…」の文言を時々思い出していただきたい。歴史の資料が散逸しない内に、時代の証人が生きている内に、是非とも振り返る機会を得たいものです。

(セブン&アイ鈴木敏文会長の辞任報道を聞きながら)



元道連専務理事 重原祐治氏

北海道大学 生活協同組合

イマ時の北大生～増加する奨学金受給金額

2015年10月に実施した学生生活実態調査(全国大学生生活協同組合連合会 詳しくは URL : <http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> 参照)の北大生の実態調査結果がまとまりましたので、その一部をご紹介します。誌面の都合上、「学生の収入と支出」についてのご紹介となります。

【住居形態別にみる収入と支出】

アンケート回答者は、380名です。住居形態別の内訳は、自宅生116名(30.5%)、寮生を含む自宅外生が264名(69.5%)となっています。今回の比較はアベノミクス実施直前の2012年度を基準に2015年度アン

ケート調査集計数値と比較しています。

アベノミクス実施前と今回の調査データとを比較すると、自宅外生の仕送り額が減少しており、仕送り額が減少した分をアルバイト収入と奨学金で補っていることが見て取ることができます。一方で自宅生の収入は一見、全体として伸長しているように見えますが、『その他』の項目を除くとほぼ横ばいの状態です。

【奨学金受給金額の増加】

アンケートでは、自宅外生の【収入合計】がアップしています。その中でも奨学金は850円とアップしています。また、自宅生の【収入】のうちでも、奨学金は930円アップしています。特に自宅生の奨学金受給金額は2013年、2014年と一旦は減少したものの、2015年は再び増加しており今後も、景気動向によっては、奨学金の増加がありえると思われます。奨学金の返済は、近年、大きな社会問題となっており、注視していく必要があると思われます。

支出面では、特に自宅外生は、2014年に実施された消費税増税や食料品値上げの影響も受け、食費を筆頭に総じて各項目アップしていますが自宅生も含め、

【貯金・繰越】金が減少(自宅外生▲4,970円 自宅生▲3,680円)となっております。これは最近の物価上昇の影響を受け、今までのように仕送り額や、アルバイト収入等から貯金に回す余裕が無くなってきているのではないかと考えられます。

